

リュウキュウオオコノハズクは都市で生きられるか —適切な保全に向けた基礎生態の解明—

島嶼鳥学研究会 熊谷隼 (北大・院・理) ・江指万里 (北大・院・理) ・宮城国太郎 (沖縄野鳥の会)

リュウキュウオオコノハズクとは

リュウキュウオオコノハズクは、沖縄にのみ生息するオオコノハズクの固有亜種です。
絶滅危惧種Ⅱ類(VU)に指定されており、かつ沖縄の中でも現在生息が確認されているのは**沖縄本島のみ**です(Ito, 2018)。

主に森林に生息すると言われていますが、夜行性である彼らは、その観察の難しさからも**基礎生態があまり分かっていません**。

『都会っ子』がいる？

『森の賢者』、そんな一般的なフクロウのイメージとは対照的に、中南部の森林の少ない**都市においてもリュウキュウオオコノハズクの繁殖**が報告されています(Takehara, 2002)。加えて、過去2年の独自調査でも、**一部の都市で本種の生息を確認**しました。

この『都会っ子』の存在から、様々な疑問が生じます。



▲リュウキュウオオコノハズク

- ・なぜ都市にいるのか？都市で生きる個体はどのくらいいるのか？
- ・都市にも十分な餌はあるのか？
- ・狭いと思われる都市の生息域で、生まれた雛に行く当てはあるのか？
- ・そもそも沖縄本島内での分布はどうなっているのか？

保全のためにもいま必要なこと

2021年7月、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が**世界自然遺産**に登録されました。本種もこの地域に生息する生物の一つですが、実際の個体群がどのくらいこの地域に含まれるのかは未だ分かっていません。

本種の保全を進めるには、彼らが**どのような環境を好み、どのように生きているのか**、基礎生態をより詳細に調べる必要があります。



▲やんばるの森に生息する多様な生物たち

保全を考えるには、基礎生態・分布・生息環境が分かっていなさすぎる！

調査研究の目的

- ①沖縄本島のリュウキュウオオコノハズクの詳細な分布状況を明らかにする
 - ・森林と都市でそれぞれどこに分布しているか（地域、植生、地形）
- ②森林と都市それぞれから基礎生態・生息に必要な条件を明らかにする
 - ・体のサイズは関係しているか（例えば都市で小さい、森林で大きいなど）
 - ・採餌の共通点・違いは（量、種類、割合）

実施内容

過去2年間で巣箱設置等の準備を行い、調査環境・手法を確立しています。

①野外調査

- ・沖縄本島全域で、生息個体の調査を行います。個体は目視または鳴き声によって確認し、調査地点ごとの生息状況を確認します。
- ・捕獲した個体、巣箱で生まれた雛は標識し、体重・体の各部位の計測を行います。
- ・繁殖が確認された巣箱にカメラを設置し、給餌内容を記録します。

②データ解析

- ・森林と都市で形態計測値・給餌内容などの個体情報を比較します。共通する点、異なる点から、生息に必要な条件、都市での生息を可能にする条件を検証します。
- ・生息が確認された地点をGISデータと照合し、どのような環境の違いがあるか、生息が可能な環境の条件は何かを明らかにします。



▲ 2021年巣箱利用個体の給餌の様子

期待される成果

- ・リュウキュウオオコノハズクの詳細な分布状況の把握によって、彼らが現在置かれている状況が明らかになります。
- ・森林と都市の比較により、都市進出の影響・今後の分散の予測につながります。
- ・リュウキュウオオコノハズクが生息可能な条件の解明によって、今後の保全活動や、彼らの生態に配慮した都市計画に寄与します。

支援金の使途

- ・沖縄本島までの交通費、滞在費
- ・調査地間移動のガソリン代
- ・調査機材・巣箱の購入費用

などに充てさせていただく予定です。

皆様のご支援、何卒よろしくお願いたします。

